

ぬぶ くどち  
上い口説  
(本調子)

たび ん た くわんぬんどーしんていくわんぬん  
1. 旅ぬ出ぢ立ち 観音堂千手観音

ふ うが ぐかに しゃくと ー た わか  
伏し拝でい黄金酌取てい立ち別る

すでい ふ ついゆ う はら うふどーまついばら  
2. 袖に降る露押し払い 大道松原

あゆ ゆ ゆ はちまんすーぎーじ  
歩み行く行きば八幡崇元寺

みーぢ たかはし う わた すでい つら  
3. 美栄地高橋打ち渡てい袖を連にてい

むるふいと ー ゆ かえ なか はし  
諸人ぬ行くも帰るも中の橋

うち すば うやくちよーでーつゐ わか  
4. 沖ぬ側までい親子兄弟連りて別ゆる

たびぐるむすでい すでい ついゆなみだ  
旅衣袖と袖とに露涙

ふに づいな ふなく いさ  
5. 船ぬとむ網とくどくどと舟子勇みてい

まふ ひ かじ んまふいついじ  
真帆引きば風やまとむに午未

みぐ お ぐいん まに おーじ  
6. またん廻り逢う御縁とてい招く扇や

みーぐしく ざんばみさち あと ー み  
三重城残波岬ん後に見てい

い ひゃ どう た なみう す みち しましま  
7. 伊平屋渡立つ波押し添いてい道の島々

みわた しちとーと ー なか  
見渡しば七島渡中んなだやすいく

ちむり ゆうがしま  
8. むゆる煙や硫黄島

さだ みさち なら  
佐多ぬ岬にはい並でい(エイ)

み うかいむん  
ありに見ゆるは御開門

ふじ みまご さくらしま  
富士に見紛う桜島

旅立ちの時 観音堂の千手観音を

伏し拝み 祝いの杯を受けて立ち別れる

袖に降る露を払い 大道松原を通り過ぎれば

安里の八幡様や崇元寺にさしかかる

美栄地高橋を渡るとにぎやかな

大勢の人が往来する中の橋にかかる

沖の寺の近くまで親子兄弟は連れ立ってきたが

別れの時には互いの旅衣に露涙が  
こぼれるばかりだ

船のとも綱をとく 舟子が威勢良く

帆を引けば風も真南からの順風だ

見送りの人は再会できるご縁がありますようにと  
扇を振って順風をあおっている  
船は快調で三重城残波岬も後に見るほど進んだ

伊平屋の海峡に立つ波に添い 途中の島々を

見過ごして 七島灘も無事に通り過ぎた

硫黄島の噴火の煙が立ちのぼり

佐多岬も横に見える

遠くに見えるのは御開門と

富士山と見紛う程に見事な桜島よ

< 舞踊 >

